

滋賀県文化審議会次世代育成部会第1回会議 議事録概要

- 1 日時 平成23年6月24日(金)17:00~18:30
 - 2 場所 滋賀県大津合同庁舎5F会議室
 - 3 出席者 委員：木下委員、杉江委員、辻委員、中島委員、宮本委員
事務局：多胡次長、西川課長、片山参事ほか
 - 4 議題 (1)議題1 次世代育成部会の今後の進め方について
(2)議題2 子どもが本物の文化に触れる取組の現状と課題について
(3)議題3 学校、文化施設等の実態調査の実施について
(4)その他
 - 5 議事録 以下のとおり
-

次長挨拶

滋賀県文化審議会次世代育成部会の設置について
部会長の選出について

辻委員が互選により選出された。

議題

(1)議題1 次世代育成部会の今後の進め方について

委員

- ・「滋賀県文化振興基本方針」の中の「未来の文化の担い手の育成」にある重点施策3から5のうち、まずは重点施策3「子どもが本物の文化に触れる機会の充実」について審議していくとのことであるが、関連する施策についてはどう審議していくのか。私は「人」がとても大切だと思うので、誰が文化活動を行うのか、誰が文化活動を支えるのかという部分を一番核にすべきであると考えている。

委員

- ・まず若手芸術家を育成する仕組みを整えてから、その若手芸術家を使って子どもが本物の文化に触れる取組を進めるべきである。
- ・今、実際に行われている取組の中で、どのようなことを子どもたちに伝えているのか一度現場を視察したい。

(2)議題2 子どもが本物の文化に触れる取組の現状と課題について

委員

- ・音楽の分野では、どうしても芸術家が学校を訪問して音楽を子どもたちに聞かせるだけの取組が多い。今後は、美術と同じように、子どもたちが自ら創造・参加する活動を通して、音楽の受け手や送り手になるという一歩進んだ形の子もた

ちと芸術をつなぐ方法を取り入れていくべきである。

- ・子どもの文化芸術体験を充実させるためには、まずキーパーソンである学校教員を巻き込んだプログラムにしたほうがよい。

委員

- ・例えば校長先生だけが熱心で、現場の先生はほとんど興味がなく、芸術家や文化施設職員におまかせということも多い。

委員

- ・受入側の意識を変えていかないと、単にプログラムを提供すれば効果があるというものではない。まず人の意識を変える部分を丁寧に長い時間をかけてやっていかなければいけない。
- ・プログラムの質が大事である。質の高いプログラムを提供しないと子どもたちは変わらない。質の高いプログラムの開発には、しっかりしたコーディネーターやプログラムプランナーが必要だが、日本にはこのような人材が圧倒的に少ない。

部会長

- ・いろいろなプログラムがあるが、滋賀県の特徴を生かしたプログラムを重点的に実施することもポイントである。
- ・県全域へ拡大していくためには、北部と南部の格差の問題がある。

委員

- ・例えば長浜曳山祭などでは、子どもたちが非常に高度な習い事をして、晴れの舞台上で発表する。子どもの人格形成の上でもよい影響を与えている。
- ・滋賀県の北部は土着の取組があって、新しいものを受け入れにくいという土壤がある。

委員

- ・（財）地域創造の音活アウトリーチ事業では、学校現場とアーティストをつなぎ、ただ聞かせるだけではない参加型のプログラムをアーティストと一緒に考えるコーディネーターがいる。県事業でもこのような仕組みを考えるべきである。
- ・以前、ある学校で3年にわたって実施したプログラムをご紹介したい。まず1年目は学校の先生向けにコンサートを実施し、先生方が「ぜひ子どもたちの保護者に聞かせたい」とのことで、2年目は保護者向けのコンサートを実施した。さらに保護者から「子どもたちに聞かせたい」と言ってもらって、3年目に子どもたち向けのコンサートを実施した。子どもたちに直接働きかけるのではなく、先生や親を巻き込む取組として素晴らしい事例である。

部会長

- ・逆ベクトルの取組の事例としては、金沢21世紀美術館の取組がある。ここは、まず子どもたちに無料で入館してもらおう機会をつくり、その半券を持って次は保護者と一緒に来館するという仕組みで、入館者数を増やしている。

委員

- ・プログラムの質の評価は数値で出しにくい。時間はかかるが各種アンケート等を通して、質の追求をして改善をしていくことが必要である。
- ・滋賀県の特徴を生かしたプログラムとしては、滋賀次世代文化芸術センターではやきもの（信楽焼）を核にしている。土を使うと本当に人は変わる。

部会長

- ・土の表現や伝統芸能など、滋賀が持っている固有の文化を核にすると面白い。

(3) 議題3 学校、文化施設等の実態調査の実施について

委員

- ・文化施設にはこのようなアンケートがたくさんくる。この内容では、人によって回答が大きく違ってくる可能性がある。今、滋賀県がこのようなことに取り組んでいるのはなぜなのかというメッセージも相手に伝わるような内容にしてはどうか。

委員

- ・ヒアリングには、学校公演をしたことがないところの意見もぜひ聞いて欲しい。

委員

- ・受け取った人がどういうふう調べて書くかによって全く異なる回答が出てくる可能性がある。
- ・アンケート回答者の立場にたって設計することが大切である。アンケートをすることによって先方の資料的価値やノウハウが高まる形で設計してはどうか。

委員

- ・アンケートをすることによって意識を向けてもらうということであれば、誰に回答してもらうかという点はとても大切である。
- ・全県的にデータをとるのであれば、もう少し内容を検討し、知りたいことをきちんと盛り込むことが必要である。

(4) その他

委員

- ・学校教育だけでなく、不登校児童など学校に行けない子どもたちにこそ、本物と触れることが大切なので、そういった部分にも目を向けていただきたい。

部会長

- ・美術や音楽は人が変わるきっかけになるので、不登校児童等に関わる部分の研究も必要である。さらにこれとエイブルアートなどがつながってくると、今の県の施策とも合致してくる。

(以上)